

こまき市民「多文化共生」ワークショップ  
～みんなで小牧の多文化共生を考えよう～  
実施報告

1. ワークショップの概要

○ 開催趣旨

小牧市多文化共生推進プラン【第2次プラン】の策定に伴い、現状の課題の抽出と施策への反映のため、一般社団法人小牧青年会議所との協働により、ワークショップを実施した。ワークショップでは、小牧市の多文化共生推進について、行政・市民・企業の立場からの活動報告と、日本人市民と外国人市民による多文化共生の課題についての意見交換を行った。

(1) 実施概要

日時：2019年7月6日(土)15:00～17:15

場所：まなび創造館 4階 多目的室

対象：市内在住・在勤・在学の日本人市民および外国人市民とし、日本語でのコミュニケーションがとれる方を対象とした。

当日参加者数：約40人(市職員・青年会議所等のスタッフを除く)

(2) ワークショッププログラム

ワークショップは下記の内容で実施した。

時間	内容
15:00～15:03	主催者あいさつ
15:03～15:08	小牧市の外国人住民を取り巻く現状について …外国人住民数の推移と現プランの達成状況について 説明
15:08～15:18	多文化共生の活動報告 にわたりの会 代表 丹羽 典子 氏 エスエス産業 ホアン・ウエット 氏
15:18～15:26	プログラム説明
15:26～15:36	グループ内自己紹介

15:36～16:41	ぐるーぷわーく こまきし たぶんかきょうせい かだい いけん グループワーク(小牧市の多文化共生の課題について意見 交換)
16:41～16:56	ぐるーぷはっぴよう グループ発表
16:56～17:04	わーくしょっぷ しゅうりょうあいさつ ワークショップのまとめと終了挨拶
17:04～17:15	ぜんたい きねんさつえい さんかしゃあんけーとぎにゆう 全体の記念撮影、参加者アンケート記入

### (3) 告知

ワークショップの告知にあたっては募集チラシを作成・配布し、市広報およびホームページ上で開催の告知を行った。

**Komaki**
～みんなで小牧の多文化共生を考えよう～
**JCI**

## こまき市民 『多文化共生』 ワークショップ



日本人市民と外国人市民が、共に暮らしていく中で、困っていることや、こうしたほうがよいと思うことを、話しあうワークショップです。小牧市と(一社)小牧青年会議所の協働により開催します。小牧市では、多文化共生推進プラン【第2次プラン】の策定をすすめており、今回のワークショップの内容も参考にします。

多文化共生に興味がある方は、ぜひご参加ください。

日本人市民も、外国人市民も、大歓迎です！

多文化共生ってなに？

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

**日時** 7月6日(土) 15:00～17:15 (14:30受付開始)

**場所** まなび創造館 4階 多目的室  
(小牧市小牧3丁目555番地 ラビオ4階)

**参加費** 無料(0円)

**対象** 市内在住・在勤・在学の日本人市民・外国人市民

**定員** 40名(先着順・応募状況により多少変動します)

**内容** 市民・企業による多文化共生推進の活動報告  
外国人市民と日本人市民が共に暮らしていく中での課題について意見交換

**申込方法** 7月3日(水)までに下記の参加申込書に記入し、電話・メール・FAXで小牧市シティプロモーション課に申し込んでください。

**その他** ・ワークショップではやさしい日本語を使います  
・持ち物は特に必要ありません

**主催** 小牧市、一般社団法人小牧青年会議所  
**問合せ先** 小牧市シティプロモーション課にぎわい創出係  
TEL 0568-76-1173 FAX 0568-75-8283 MAIL citypromotion@city.komaki.lg.jp

**参加申込書(さんかもうしこみしょ)**

氏名	住所	電話番号
参加希望人数(本人含む)	国籍	話せる言語
人		



さんかしゃぼしゅうちらし  
参加者募集チラシ

## 2. ワークショップの結果まとめ

ワークショップでは、参加者から出された課題に対して、どの主体が取り組むべきかという視点でまとめを行った。その一部を下記に抜粋する。

### (1) 国の取り組み

- ・銀行の手続きの簡略化。
- ・手話の国際ルール統一。
- ・電車の表記を簡単にしてほしい。
- ・標識が日本語で細かく書いてある道路や横断歩道。
- ・仕事関係の漢字を簡単にしたり説明をする。

### (2) 小牧市(行政)の取り組み

- ・サッカー関連の体制が整っていない。
- ・病院に通訳がいる方がいい。
- ・就学ガイドの情報が古い。
- ・子どもの予防接種の受け方。
- ・公共施設・学校・区の病院にポケットークの配布。

### (3) 地域の取り組み

- ・マナーが悪いという理由で家を貸してくれない。
- ・日本人と色々な企画に参加したい(例えば防災訓練)。
- ・日本人の友達がつくりたい。環境をつくってほしい。交流会をする機会。
- ・町内会(住んでいる地区)のルール(当番や内容)が分からずに近所の人と仲良くできないので、説明してくれる人や本があるといい。
- ・ゴミの出し方が分かりにくいので、分かりやすくしてほしい。イラストや母国語。

### (4) NPO(民間)の取り組み

- ・日本語・母語のどちらも分からない。
- ・多文化の方にボランティア活動に参画していただく。運転手、町のガイドなど。
- ・スポーツや集まりがもっとあると仲良くなる。あるなら宣伝してほしい。

## (5) 学校(教育)の取り組み

- 学校で言葉が分からないので友達ができない。
- いじめがある。
- 先生が動かない。学校に行けていない。
- 日本語の会話ができて学習に使う言葉ができるわけではないことを知ってほしい。
- 小学校に入る前に幼稚園や保育園に行っていない子がいる。

## (6) 企業の取り組み

- 電車の乗り換えが難しい。
- KIA(小牧市国際交流協会)の日本語教室が満員。会社で日本語教室をしてほしい。
- 学校を出てからの仕事に困る。

## (7) 自分たち(市民)の取り組み

- マナーが悪いという理由で家を貸してくれない。
- 日本人が外国人を受け入れられていないこと、見た目で判断しがち、差別やいじめ(偏見)が多い。
- 日本語やルールやマナーを知る機会が少ない。
- 書類の読み書きを手伝ってくれるところがあればいい。
- 大人になってから勉強したくても、どこでできるかわからない。

### 3. 今後の課題

#### (1) 新たな言語への対応

近年小牧市では技能実習生の増加に伴い、在留外国人におけるベトナム人の割合が増加している。ワークショップの参加者からはベトナム語通訳の配置を望む声があり、今後増加すると見込まれるアジア諸国の言語や、やさしい日本語での対応が求められる。

#### (2) 学校での子ども・保護者への支援

ワークショップの参加者から学校が取り組む課題として、「保護者が学校からのお知らせを理解できない」「学校のお知らせが読めない」などが挙げられており、子どもの学校生活のために学習支援だけでなく保護者に届くような支援の在り方を検討する必要がある。

#### (3) 子育て・福祉への取り組み

子どもの予防接種や子育てに困っている外国人の相談に課題があるとの意見があり、また高齢の外国人市民が利用しやすいショートステイが増えるとよいという声も上がった。今後外国人市民が増えていく状況においては、日本人市民と同等の幅広い支援が必要となってくる。

#### (4) 日本語でのコミュニケーションについて

災害時の避難指示や標識の表記についてやさしい日本語にすべきという意見がある他、敬語や曖昧な日本語は理解しにくいという意見が挙げられた。国籍を問わず意味が伝わる、やさしい日本語の普及を推進していく必要がある。

#### 4. ワークショップの様子(当日写真)



## 5. 参加者アンケート結果

参加者に行ったアンケート結果を下記に抜粋する。

※ 記載のないものや、国籍不明のものは省略。

### 参考になった意見・どう感じたか

参加者国籍	内容
日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の現状の問題点</li> <li>・日本の良さを日本人も考え、外国から来た人達と共に、全ての人が暮らしやすい国・県・市にしていく。</li> <li>・言葉の壁や文化の壁を越え、情報を共有し、協力し合うことの大切さ。</li> </ul>
韓国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の壁、年金等、多文化共生には情報・生活資源の格差を感じた。</li> </ul>
ブラジル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の壁、病気や、相談、学校システム等、親へのサポート。</li> <li>・外国人が困っている事は、日本人の生活にも共通したことであり、全ての市民にとって良いことも多々あるのでは。</li> </ul>
ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもやくにたちます。</li> <li>・お互いの文化の勉強・交流。</li> </ul>
ペルー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ごとに学校等で言葉の勉強ができるといいと思いました。</li> <li>・日本語を読んだり書いたりしてくれる所が必要。</li> </ul>

### 地域がどんなことをするか

参加者国籍	内容
日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人に声をかけるなどコミュニケーションをとる。</li> <li>・書類やことばを理解しやすい日本語やローマ字表記していきたい。</li> <li>・地域の学校で、大人の日本語教室が開けたらと思います。</li> </ul>
韓国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの意識共有、できることから(子育て支援)。</li> </ul>
ブラジル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の給食を外国の料理を出してほしい。</li> <li>・いじめがないようにすればいいと思いました。</li> </ul>

## よくしていくこと・どうしていくか

参加者国籍	内容
日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生のイベントに積極的に参加したい。</li> <li>・心をオープンに挨拶や会話。</li> <li>・外国人も一緒に過ごしていく仲間であることを子どもに伝える。</li> </ul>
韓国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化の方を主役にした企画・お祭りを(大々的に・行政主導)、県内でも先駆けてSDGsの活用を!</li> </ul>
ブラジル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の子どもに勉強を教えてあげたい人達が困っていることに気づいていない可能性があるので、もっと伝えていくべき。また差別などは自分達の問題であるので、他国の文化を知ろうとするのが大事。</li> </ul>
ペルー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語をしっかりと勉強しようと思った。</li> <li>・アパートの契約、学校支援。</li> </ul>

## 感想

参加者国籍	内容
日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと気軽に参加できる、こういった交流の場をもっと増やしましょう。</li> <li>・外国人の親さんの悩みを直接聞けてよかったです。</li> <li>・多文化共生のことや困っていること、どうしたらよりよく生活できるのか、よくわかった。</li> </ul>
ブラジル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人もすべて「わからない」ではなく、わかろうとする気持ちをもってもらうことも大事。</li> <li>・多文化共生について様々な感想を聞いてとても勉強になりました。また参加したいです。</li> </ul>